

皆さんは、ポストモダン主義という言葉聞いたことがありますか？今や時代は、このポストモダン主義に入っていると言われます。ポストが「後」という意味で、モダンが「近代」という意味ですから、あわせて「近代以後」という意味になります。このポストモダンの特徴をひとつ挙げるとすれば、「普遍的な真理などない、ある特定の集団にだけ通用する特有な価値観があるだけである、…」というようなものです。

それに対して近代という時代の考え方では、世の中には普遍的な真理がある、その真理を探究し、発見する、その真理を携えて、まだ真理を知らないひとたちを啓発していく、というような考えです。例えば、西欧から世界中に広がっていったキリスト教などにもみられます。しかし、西洋医学ではどうしても回復しない病が、東洋医学で驚くほど病気がなおったというような話なども、ちなみに溢れています。数十年前には、東洋医学は、西洋に比べ劣っているという風潮があったような記憶があります。

今まで何の疑問もなく、受け継いで守ってきた価値基準（これを手放すことは容易ではありません）では通用しないような状況におかれたとき、今まで見向きもしなかったことに注意、関心を寄せるようになります。今という時代はそういうときかもしれません。

ニコデモス（ギリシア語名）はそういうひとのひとりだったようです。彼が極めて婉曲に、また敬意をもってイエスに尋ねます。ニコデモはイエスを「ラビ」と呼ぶ、イエスをユダヤ教の教師として認め敬意を表しているのです。そして「わたしたちは知っている、あなたが神の

もとから来られた教師であることを。」自分ひとりのみならず、ユダヤ教の多くの者たちが、あなたを神のもとから来られた教師、公に教師であると認めますよと宣言するので。なぜなら、「神が共におられるのでなければ、あなたのなさるようなしるしを、だれも行つことはできないからです。」あなたがなさるさまざまな行いは、明らかに神に由来するものです、というのです。

ちょっと下世話で荒っぽい喩えで恐れ入りますが…、無所属で立候補し、当選した議員に、非公式に水戸下で打診にうかがい、与党に入党するよう勧誘しているとも言えましょか。

イエスはこのように敬意を込めたニコデモスからの証——したがって中心はニコデモスの社会的威信にあるのです——、に対して、「ひとは新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない（3節）」と言い放たれました。あなたは仮にも人々に神の救いを説き教える立場でありながら、まったく分かっていないではないかといわんばかりです。神が治める世界というのは、あなたのような価値観から脱してまったく新しい命を与えられて生きる世界なのだよとおっしゃるのです。

海千山千の年老いた長老ニコデモスは、瞬時に悟ったのです。彼の良心に、イエスの鋭い、しかしあたたかい言葉が届いたのでした。その言葉は、彼の伝統的な価値観に根ざした社会的な威信、権威を瞬時に瓦解させ、「神と共にある」ということの意味、「神から遣わされて行く」といふことの意味、

年老いて社会の辛酸をなめ尽くしたニコデモスが、ひそかに気がつかされていたこと、このままでは何かとても大切な核心がない、それがなければすべては無意味に帰してしまうという、その核心ついたイエスの言葉が届

いたのでした。

4ニコデモは言った。「年をとった者が、どうして生まれることができましょう。もう一度母親の胎内に入って生まれることができるでしょうか。」イエスは「お答えになった。「はつきり言っておく。だれでも水と霊とによつて生まれなければ、神の国に入ることはできない。6肉から生まれたものは肉である。霊から生まれたものは霊である。」

あなたは「神が共にいる」とか「神から遣わされた」者だとわたしのことを評するが、そもそも神の意志とは、あなたの思考の枠内に収まるものではないだろう。神の意志は、風のように自由で、わたしたちと「共にいる」とか、あなたが論ずるような根拠、「神から遣わされる」などと、枠内に抑え込むことなどできないのではなかったらうか？その自由の息吹を、あなたもよく知っているだろう…。」

7『あなたがたは新たに生まれねばならない』とあなたに言ったことに、驚いてはならない。8風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞いても、それがどこから来て、どこへ行くかを知らない。霊から生まれた者も皆そのとおりである。」

しかし、彼の良心の外側にしっかりと装着された社会的な地位と威信が、イエスの言葉を撃退しようとする。どうして、そんなことがありえましょか」と。イスラエルの長老として、幾度となく社会の大きな問題を克服し、解決に導いてきた経験に基づく、その威信に立とうとする限り、自分の良心に届いたイエスの言葉を踏み潰すしかないのです。

タルムード（サンヘドリン43a）において、イエスの五人の弟子の名があげられています。マタイ、ナツカイ、

ネツエル、フニ、トダ。このうちのナツカイはギリシア語のニコデモスがアラム語になったものです。この五人はそろって処刑されたという。しかしニコデモスがイエスの弟子になったという痕跡があるのです。(田川)

世俗社会で、つまり社会の価値観にしたがって日々生きて行かざるを得ない、そこで社会の信用を勝ち取ることは、わたしたちにとってもとても大切なことです。業績をあげていくうちに、わたしたちは、神の意志、自由を見失ってしまうことがないでしょうか？社会の価値によって、自由が押さえつけられていることはないでしょうか？

しかし「風は思いのままの吹く」のです。わたしたちもまた、神の自由に招かれているのです。この呼びかけに応えて、神共にいまし、神に遣わされて世に出て行きましよう。